令和元年度

南砺市子ども読書活動推進計画
（第３次）進捗状況について

（平成３０年度事業）

令和元年５月

南砺市立中央図書館

Ⅰ　令和元年度
南砺市子ども読書活動推進計画（第３次）進捗状況について

１．趣旨

子どもの「読書離れ」が指摘されていた中で、国は平成１３年１２月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行した。南砺市においても平成２４年３月に「南砺市子ども読書活動推進計画（第２次）」を策定し、平成２９年３月には「南砺市子ども読書活動推進計画（第３次）」（実施期間は平成２９年度から平成３３年度までの５年間）を策定した。ここに平成３１年３月３１日現在の第３次計画の進捗状況を報告する。

２．点検・評価の対象

平成３０年度の「南砺市子ども読書活動推進計画（第３次）」の進捗状況について

３．点検・評価の方法

（１）自己点検評価

「南砺市子ども読書活動推進計画（第３次）」での活動状況及び事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

（２）図書館協議会への報告及び公表

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを図書館協議会に提出するとともに、南砺市ホームページへの掲載により、公表する。

Ⅱ　平成３０年度　計画の体系と評価

基本方針

（１）子どもの自主的な読書活動の推進

（２）家庭・地域・図書館・学校等を通じた社会全体での取組みの推進

（３）子どもが読書に親しむための諸条件の整備・充実

（４）子ども読書活動に関する理解と関心の普及

具体的な方策	基本施策	担当課	ページ数
(1)家庭・地域における子どもの読書活動の推進	ア　家庭における読書活動の推進	中央図書館	･･･ 3
	イ　保育園・幼稚園における読書活動の推進	こども課	･･･ 3･4
	ウ　児童館・子育て支援センターにおける読書活動の推進	こども課	･･･ 4
	エ　保健センターにおける読書活動の推進	保健センター	･･･ .5
	オ　公民館における読書活動の推進	生涯学習スポーツ課	･･･ 5･6
(2)市立図書館における子どもの読書活動の推進	ア　読書環境の整備	中央図書館	･･･ 6
	イ　図書資料の充実	中央図書館	･･･ 7
	ウ　読み聞かせやおはなし会等の開催	中央図書館	･･･ 8
	エ　司書の配置と職員の資質向上	中央図書館	･･･ 8･9
	オ　啓発広報	中央図書館	･･･ 9
	カ　図書館ネットワークの強化	中央図書館	･･･ 10
(3)学校における子どもの読書活動の推進	ア　司書教諭の配置	教育総務課	･･･ 10･11
	イ　学校図書館担当職員の配置	教育総務課	･･･ 11
	ウ　学校図書館資料の充実	教育総務課	･･･ 12
	エ　学校図書館の蔵書管理システム化	教育総務課	･･･ 13
	オ　学校における読書指導の充実	教育総務課	･･･ 13･14
	カ　関係機関との連携	教育総務課	･･･ 14
(4)社会全体における子どもの読書活動の推進	ア　地域ボランティアの協力	中央図書館	･･･ 15
	イ　地域の連携・協力		

（１）家庭・地域における子どもの読書活動の推進

Ⅰ　計画の体系

基本施策	ア　家庭における読書活動の推進	担当課	中央図書館
主な取組	①図書館では、「あかちゃんに絵本を」を更新し配布することで、保護者による読み聞かせを推進する。 ②子どもたちが図書に関する情報をいつでもどこでも気軽に調べることができるよう、図書館ホームページの子ども向けページの充実と活用を促進する。 ③図書館では、親子で一緒に楽しむことができるイベントの充実と、ホームページや広報誌などでの情報発信の充実に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年（H29）	現状（H30）	内　容
ホームページの更新（回数）	12 回	12 回	ホームページは毎月更新している。 県内唯一、南砺市立図書館でしか実施していない特別なおはなし会「絵本ライブ」は、親子で一緒に楽しむことができるイベントで、大変好評である。
絵本ライブ（人数）	243 人	269 人	

Ⅲ　評価と改善点

絵本ライブは、順調に推移しているため、引き続き、親子で楽しむことができる絵本ライブを中心にイベントを充実させる。
子どもたちが図書に関する情報を得るため、小学生の図書館訪問等の際に、ホームページによる利用説明等を実施する。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	イ　保育園・幼稚園における読書活動の推進	担当課	こども課
主な取組	①読み聞かせ技術の向上や子どもの読書活動に関する情報を得られるよう、保育士や幼稚園教諭の研修機会を設ける。 ②図書館と連携を強め、発達段階に応じた図書の選定に努める。 ③地域のボランティアグループと連携し、親子に読み聞かせを行うなど絵本の楽しさを伝える。 ④「子育てミニ文庫」を活用して絵本を貸し出すなど、家庭での読書のきっかけづくりに努める。 ⑤園内に設置された絵本コーナーで、子どもが絵本を身近に感じ、自ら手に取る機会を提供する。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年（H29）	現状（H30）	内　容
出前おはなし会の参加者	722 人	1,146 人	図書館からの出前おはなし会、保育園からの図書館訪問を通じて連携を強めている。 園内に設置されている「子育てミニ文庫」等の絵本は、家庭での読書のきっかけづくりに貢献している。
図書館招待・探検（人数）	78 人	85 人	
子育てミニ文庫設置数	11 園	11 園	

Ⅲ　評価と改善点

出前おはなし会の参加者は大幅に増えている。今後も「なんと！本と子育て応援講座」を開催し、保育士や幼稚園教諭の研修の機会を設け、さらに図書館との連携を深める。 子育てミニ文庫の改善の取組として、市内全 12 園設置できるように努める。 今後も、団体貸出の内容の充実に努める。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	**ウ　児童館・子育て支援センターにおける読書活動の推進**	**担当課**	**こども課**
主な取組	①図書館と連携して、乳幼児や児童の図書の選定を行うなど、図書コーナーの整備と充実に努める。 ②ボランティアグループや講師によるおはなし会を開催するなど、今後も読書の楽しさを伝える。 ③年齢に応じた図書の展示をするなど、子どもと本との出合いの場を増やす。 ④図書館発行の「あかちゃんに絵本を」を配置したり、「子育て支援センターだより」で読み聞かせの大切さを紹介したりするなど、乳幼児の保護者に積極的に情報を発信する。 ⑤推薦図書の紹介をしたり、公民館などで読み聞かせを行ったりして、乳幼児・児童の読書の大切さや読み聞かせの大切さを伝える。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目		前年（H29）	現状（H30）	内　容
図書館からの団体貸出	児童館	２回	５回	児童館では、夏休み期間中、図書館からの団体貸出によって、図書コーナーの充実を図り、高校生による読み聞かせを実施している。 子育て支援センターでは、図書館からの団体貸出によって、図書コーナーの充実を図り、図書館職員や読み聞かせボランティア団体による「出前おはなし会」を実施し、読書の楽しさを伝えている。
	子育て支援センター	96 回	96 回	
高校生による読み聞かせ	児童館	８回	７回	

Ⅲ　評価と改善点

概ね達成している。今後は、市内の全児童館への団体貸出を検討し、家庭では購入しにくい図鑑や、宿題に役立つ本などを提供する。 子育て支援センターでは、読み聞かせボランティア団体や高校生によるおはなし会を更に充実する。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	エ　保健センターにおける読書活動の推進	担当課	保健センター
主な取組	①　図書館や子育て支援センターなどと連携して、乳幼児期に絵本とふれあう大切さや読み聞かせの大切さを伝える場とする。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年（H29）	現状（H30）	内　容
「あかちゃんに絵本を」の配布数	90	167	リーフレット「あかちゃんに絵本を」の設置によって、乳幼児期に絵本とふれあう大切さを伝えてきた。乳幼児健診時に保健師が保護者へ、絵本は話しことばの発達を促すきっかけとして効果的であるため、絵本を選ぶポイントや子どもの興味関心に沿った読み聞かせ方を個別に助言している。また、会場には絵本コーナーを設置しており、待ち時間に母子が自由に手に取り読む姿が見受けられる。 歯科健診時は、待ち時間に母子保健推進員が紙芝居の読み聞かせを実施することもある。

Ⅲ　評価と改善点

施策の効果は現れている。
今後の取組みとして、図書館から保護者に月齢に応じたおすすめ絵本の選び方や、乳幼児期に絵本とふれあう大切さや読み聞かせの大切さを、リーフレット等で伝えていく。
また、保健センターのホームページを通じて、図書館のイベント情報を提供する。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	オ　公民館における読書活動の推進	担当課	生涯学習スポーツ課
主な取組	①図書館と連携し、引き続き「子育てミニ文庫」の充実・利用促進を図る。 ②公民館行事等を利用して、地域の子どもに家庭での読書の大切さを啓発するよう努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	現状（H29）	現状（H30）	内　容
子育てミニ文庫	31 箇所	31 箇所	読み聞かせの絵本や子育て支援につなげる絵本などは、平成 22 年度より「子育てミニ文庫」として南砺市内全公民館に設置。地域の子育て世代を中心に幅広く活用されている。 地域の身近な施設として、夏休み子ども教室を利用して「夏休み移動図書館」を福光地域の３公民館（石黒・山田・東太美）で実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えてきた。
夏休み移動図書館	62 人	41 人	

Ⅲ　評価と改善点

効果は現れている。残念ながら、夏休み移動図書館は参加人数が伸びなかった。他の行事と重なると参加者が極端に減るため、日程の調整が今後の課題である。 読み聞かせの絵本や子育て支援につなげる絵本を充実させるため、「子育てミニ文庫」の選書について、図書館と連携をさらに図る。 福光地域で実施している、夏休み移動図書館の内容を更に充実させる。

（2）市立図書館における子どもの読書活動の推進

Ⅰ　計画の体系

基本施策	**ア　読書環境の整備**	**担当課**	**中央図書館**
主な取組	①子どもの読書に関する現状やニーズを知り、館内の配置や掲示などを工夫して、より利用しやすい環境を整備する。 ②関係施設と連携して、子どもと本の出合いの場を提供する。 ③誰もが本に親しみ、情報を得ることができるように、利用しやすい施設、郵送サービスなどの環境を整える。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目		前年（H29）	現状（H30）	内　容
子どもの本の展示（毎月実施）	中央	12回	12回	子どもたちは、いつもくつろいだ雰囲気の中で本を選び、読んでいる。保護者が子どもに本を読み聞かせしたり、選んだりして、本を通した家族のふれあいの場になっている。 保育園や幼稚園の卒園児に図書館共通利用カードをプレゼントし、図書館利用と読書に親しむきっかけづくりを行っている。 来館することが困難な子どもたちには、団体貸出等で、多くの本と出合えるサービスを提供している。
	城端	12回	12回	
	平	12回	12回	
	井波	12回	12回	
	福野	12回	12回	
郵送貸出サービス		0回	0回	

Ⅲ　評価と改善点

施策の効果は現れている。 関係施設と連携し、子どもと本の出合いの場を提供し、さらに利用しやすい施設にとなるよう、環境を整えていく。 来館することが困難な子どもたちへの郵送貸出サービスの利用を促進するため、施設等にチラシを設置し、周知を図る。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	イ　図書資料の充実	担当課	中央図書館
主な取組	①図書購入費を確保し、新刊の他、利用の多い図書を複数所蔵することで関係施設への団体貸出に備える。 ②永く読み継がれ劣化の著しい資料は買い換え、幅広く、充実した蔵書構築に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

○蔵書と児童書の推移

	前年（H29）	現状（H30）	目標値（H33）	達成度
市立図書館蔵書数	492,629 冊	501,448 冊	533,606 冊	0.94
うち児童書	105,875 冊	108,062 冊	112,057 冊	0.96
児童書／蔵書数	21.5%	21.5%	21.0%	1.00

○一人当たり図書貸出冊数

	前年（H29）	現状（H30）	目標値（H33）	達成度
入館者数	283,798 人	277,449 人	320,000 人	0.86
貸出冊数	361,465 冊	355,281 冊	400,000 冊	0.89
うち児童書	124,536 冊	119,133 冊	132,000 冊	0.90
南砺市人口	51,485 人	50,853 人	47,544 人	1.07
冊／人	7.02 冊	6.99 冊	8.4 冊	0.83

○市立図書館利用率

	前年（H29）			現状（H30）			目標値（H33）			
	年齢別人口 A	実利用者数 B	利用率 B／A	年齢別人口 A	実利用者数 B	利用率 B／A	年齢別人口 A	実利用者数 B	利用率 B／A	達成度
幼児（～5 歳）	1,906	187	9.81	1,883	191	10.14	1,819	218	12.00	0.85
小学生（6～11 歳）	2,237	1,623	72.55	2,177	1,455	66.84	2,122	1,485	70.00	0.95
中学生（12～14 歳）	1,243	433	34.84	1,240	368	29.68	1,175	470	40.00	0.74
南砺市人口	51,485			50,853			47,544			1.07

※実利用者数
・図書館に来館し図書資料を借りた実人数であり、団体貸出数の数は含まない。
・年度内に１回以上利用した実数であり、２回利用しても実利用者は１人とカウントする

Ⅲ　評価と改善点

全体の蔵書と児童書は、順調に推移している。
一人当たりの図書貸出冊数は、子どもから大人まですべての年齢層が含まれ、減少傾向にある。
利用率は、幼児から中学生までそれぞれ年齢に合った資料を整え、子どもたちが読書に親しみ、知識を得、想像力を育み、好奇心を満たす、資料を提供している。
図書購入費を確保し、図書館のない地域の子どもたちへも団体貸出等で対応できる資料の充実と体制を図る。今後も、永く読み継がれ劣化が著しい資料の買い換え等を実施する。
改善等の取組として、中学生の利用率が特に減少傾向にあるため、長期休業前の中学生に移動図書館を実施し、読書の大切さを伝えていく。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	ウ　読み聞かせおはなし会等の開催	担当課	中央図書館
主な取組	①学校、保育園等の要望を聞いてニーズの把握に努め、今後もおはなし会やイベントを充実させる。 ②職員やボランティアの資質の向上を図り、イベントの中で本の読み聞かせやブックトークをし、子どもたちが本の楽しさを知る機会を増やすよう努める。 ③読み聞かせボランティアグループの研修と支援に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

団　体　名	図書館 (H30)		幼稚園・保育園(H30)		子育て支援センター(H30)		小学校 (H30)		児童館 (H30)	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
おはなしまんまる	11 回	142 人	1 回	13 人	3 回	36 人				
南砺福光高等学校	3 回	177 人								
虹の会	12 回	130 人					24 回	316 人	2 回	67 人
フラットｂ	1 回	58 人					30 回	77 人		
ピッコロ	12 回	158 人			12 回	192 人	22 回	158 人		
つばきの会	12 回	46 人			12 回	72 人	33 回	223 人		
本でこんにちは	24 回	123 人					3 回	221 人		

Ⅲ　評価と改善点

施策の効果が十分に現れており、今後実施予定の「なんと！本と子育て応援講座」を通じて、職員やボランティアグループの研修や育成、支援に努める。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	エ　司書の配置と職員の資質向上	担当課	中央図書館
主な取組	①担当職員が児童サービスの時間を確保できるよう、業務分担の見直しを行う。 ②日々の業務における職員間の連携を密にし、共通認識をもって、子どもの読書活動を推進する。 ③カウンター職員の丁寧な対応や積極的な声かけで、読書案内・相談など利用しやすい雰囲気づくりに努める。 ④職員の資質向上のため、さまざまな研修に積極的に参加できるよう環境を整える。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

○職員と司書の配置状況（人）　　※職員数及び司書数には臨時職員も含む

		中央	城端	平	井波	福野	計
前年	職員数	8	4	3	4	6	25
(H29)	うち司書数	5	2	1	2	6	16
現状	職員数	8	4	3	4	6	25
(H30)	うち司書数	5	2	1	2	6	16
増減	職員数	0	0	0	0	0	0
	うち司書数	0	0	0	0	0	0

内　容

司書や、資格を有しない職員でも、子どもと本を結ぶため、児童書の幅広い知識やコミュニケーション能力を持ち、おはなし会等のイベントを積極的に開催している。
カウンター職員の丁寧な対応により、利用しやすい図書館づくりに努めている。

Ⅲ　評価と改善点

改善等の取組として、児童サービス担当職員が、児童サービスの時間を確保できるよう、業務分担の見直しを行い、おはなし会等のイベントの充実を図る。
今後も、カウンター職員の丁寧な対応や積極的な声かけをし、利用しやすい雰囲気づくりに努める。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	**オ　啓発広報**	**担当課**	**中央図書館**
主な取組	①図書館のない地域の小学校や中学校への広報活動を、担当する図書館が今後も引き続き行う。 ②図書館を利用したことのない子どもや保護者が行きたくなるような情報を発信し、読み聞かせや読書の大切さを啓発する。 ③わかりやすい展示や資料案内を工夫し、ホームページの内容も充実させる。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年（H29）	現状（H30）	内　容
どの絵本にしようかな	4回	4回	市の広報誌やホームページ、学校や保育園などを通じて、利用案内や図書の紹介、行事案内を発信している。 絵本専門士の資格を持つ職員の絵本の紹介「どの絵本にしようかな」や、中・高校生向けの「青少年向け新着図書案内」を定期的に発行し、読み聞かせや読書の大切さを啓発している。
青少年向け新着図書案内	12回	12回	

Ⅲ　評価と改善点

順調に推移しているが、図書館を利用したことのない子どもたちや保護者のために、図書館へ行きたくなるよう、広報誌やホームページ等で更に情報を発信し、読み聞かせや読書の大切さを啓発する。
青少年向け新着図書一覧は、南砺市２校の高校へ配布を、３校すべてに配布する。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	カ　図書館ネットワークの強化	担当課	中央図書館
主な取組	①今後も、司書教諭や学校図書館担当職員と連携し、各担任が学校図書館を通じて図書館を利用しやすい体制を作る。 ②今後も小学校の朝読書や長休みを利用して、読み聞かせを実施することで、子どもたちに本の魅力を知ってもらい、図書館利用や読書につなげる。 ③子育て支援センターなどと連携し、出前おはなし会の実施や、乳幼児・子育て関連図書の貸出の充実を図る。 ④小学校や中学校の実態にあった、団体貸出や移動図書館サービスの提供に努める。 ⑤図書館と学校との連携会議を定期的に開催し、情報共有に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目		前年（H29）	現状（H30）	内　容
読み聞かせ	小学校	８回	８回	各学校へは、授業に必要な資料を団体貸出等で貸出し、朝読書や長休みの時間などを利用して読み聞かせを実施している。それにより、子どもたちに本の魅力を知ってもらい、図書館利用や読書習慣を身につけている。
団 体 貸 出	小学校	4,130 冊	4,806 冊	
移動図書館	中学校	559 冊	344 冊	

Ⅲ　評価と改善点

改善等の取組として、図書館のない地域の小・中学校へ、団体貸出等のサービスを強化する。子育て支援センターへの出前おはなし会を、全地域で実施できるよう努める。中学校への移動図書館を、長期休業前に実施できるよう、検討する。

（３）学校における子どもの読書活動の推進

Ⅰ　計画の体系

基本施策	ア　司書教諭の配置	担当課	教育総務課
主な取組	①司書教諭が、市が配置する学校図書館担当職員（学校司書）と連携しながら、子どもの読書活動推進への取組みができるよう、情報交換や研究会、研修等への参加を推進し、資質向上を図る。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

○司書教諭の配置状況　（H31.4.1 現在）

		学校総数	12 学級以上の学校数	司書教諭を配置している学校数	
				12 学級以上	11 学級以下
前年(H29)	小学校	9	5	5	1
	中学校	8	0	0	3
現状(H30)	小学校	9	5	5	1
	中学校	8	0	0	3
増　減	小学校	0	0	0	0
	中学校	0	0	0	0

内　容
12 学級以上の学校すべてに司書教諭が配置されているが、義務化されていない 11 学級以下の学校 12 校のうち８校には配置されていない現状である。しかし、学校司書は全ての学校に配置されている。

Ⅲ　評価と改善点

大幅な見直しを要する。 11 学級以下の小・中学校に、司書教諭が配置されるよう努める。 司書教諭や、学校図書館担当職員（学校司書）と図書館と連携を図り、情報交換や研修等への参加を促し、資質向上を図っていく。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	**イ　学校図書館担当職員の配置**	**担当課**	**教育総務課**
主な取組	①学校図書館担当職員の情報交換や研修等への参加機会を増やし、資質向上を図る。また、図書の管理だけでなく、読書の啓発活動にも取組めるよう努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年（H29）	現状（H30）	内　容
学校司書研修参加人数	８人	９人	効果的な学校図書館運営の情報が得ることができ、職員の資質向上に役立っている。また、研修の事後アンケートでは、８割以上の職員が研修について、よかったと回答している。
オリエンテーションの実施	１校	１校	

Ⅲ　評価と改善点

順調に推移してるが、さらに学校図書館担当職員の情報交換や研修等への参加の機会と参加率を上げ、資質向上を図っていく。 また、図書の管理だけでなく、読書の啓発活動にも取組めるよう努める。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	ウ　学校図書館資料の充実	担当課	教育総務課
主な取組	①学校図書館図書標準に達していない学校については、引き続き蔵書の整備に努める。 ②図書の購入にあたっては、児童生徒、教員等の意見を参考に良書とともに必要図書を選定し、紙芝居なども含め子どもたちが幅広いジャンルから本を選び、多くの図書に触れる機会を持てるよう、蔵書の充実に努める。 ③郷土に関する本では、特に子ども向けのものが少ないため、子どもでもわかるような資料づくりに努める。 ④継続的な蔵書の入れ替えを実施し、よい本と出合う機会を増やす。		

Ⅱ　評価と内容

○学校図書館図書標準（※注１）の達成状況　(H31.3.31 現在)

		学校総数	25～50%未満	50～75%未満	75～100%未満	達成している
前年(H29)	小学校	9	0	1	0	8
	中学校	8	0	0	2	6
現状(H30)	小学校	9	0	1	0	8
	中学校	8	0	1	1	6
増減	小学校	0	0	0	0	0
	中学校	0	0	＋１	－１	0

○児童・生徒一人当たりの月平均学校図書館貸出冊数　(H31.3.31 現在)

	前年(H29)	現状（H30）	目標値（H31）	達成度
小学校（児童）	5.0 冊	4.2 冊	8.0 冊	0.52
中学校（生徒）	0.4 冊	0.4 冊	2.0 冊	0.20

内　容

学校図書館図書標準達成状況について、14 校で達成している。
児童・生徒一人当たりの月平均学校図書館貸出冊数は、中学生になると減少する傾向となった。

Ⅲ　今後の取組みと改善点

学校図書館図書標準に基づき目標に達し、順調に推移していても、子どもたちが利用できる資料の充実のため、古い本の廃棄等を図る。
また、「ふるさと教育」の充実のため、新たな郷土資料の作成や更新を図る。

※注１　学校図書館図書標準計算式

小学校

学級数	蔵書冊数（冊）
1	2,400
2	3,000
3～6	3,000+520×(学級数-2)
7～12	5,080+480×(学級数-6)
13～18	7,960+400×(学級数-12)
19～30	10,360+200×(学級数 18)
31～	12,760+120×(学級数-30)

中学校

学級数	蔵書冊数（冊）
1～2	4,800
3～6	4,800+640×(学級数-2)
7～12	7,360+560×(学級数-6)
13～18	10,720+480×(学級数-12)
19～30	13,600+320×(学級数-18)
31～	17,440+160×(学級数-30)

Ⅰ　計画の体系

基本施策	エ　学校図書館の蔵書管理システム化	担当課	教育総務課
主な取組	①データベース化にあたっては、蔵書の登録のための作業時間と経費が必要なので、導入していない学校については、蔵書の充実を優先にしつつ、データベース化とともに、コンピュータ管理化に向け努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

○学校図書館の蔵書管理システム化状況　（H31.3.31 現在）

		学校数	データベース化	コンピュータ管理
前年(H29)	小学校	9	4	5
	中学校	8	5	3
現状(H30)	小学校	9	4	5
	中学校	8	5	3
増減	小学校	0	0	0
	中学校	0	0	0

内　容

すべての学校で、学校図書館の資料は、データベース化およびコンピュータ管理されている。

Ⅲ　評価と改善点

順調に推移している。今後も、学校と学校、学校と図書館との蔵書のネットワーク化を図っていく。

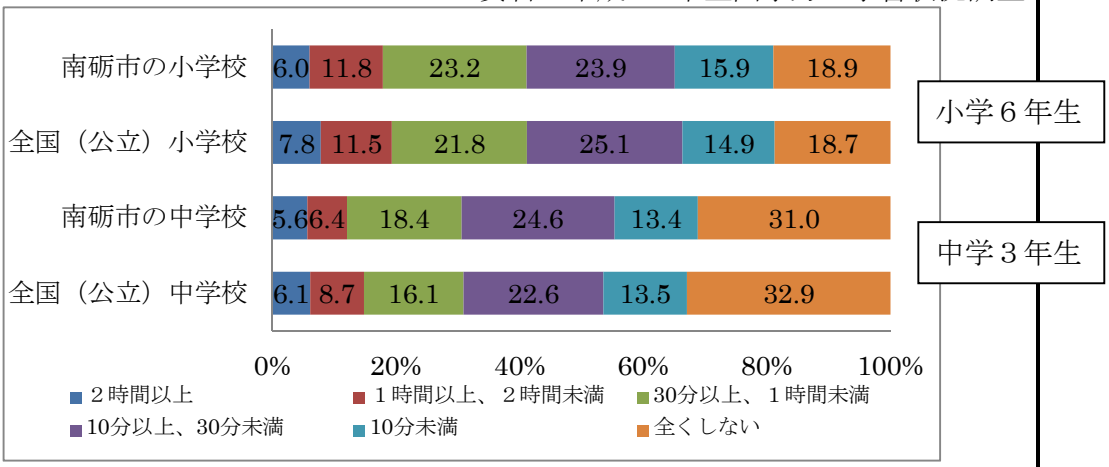
Ⅰ　計画の体系

基本施策	オ　学校における読書指導の充実	担当課	教育総務課
主な取組	①読書力や学習情報の収集力を高めるために、引き続き読書環境の改善や工夫を行い、研修を実施するなどして、読書に対する児童・生徒の意識が向上するよう、効果的な指導に努める。 ②「ファミリー読書の日」や「ノーゲームデー」の実施に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

授業時間以外に（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

資料：平成 30 年全国学力・学習状況調査



内　容
学校では、児童・生徒が読書の習慣を身につけるために、朝の読書活動を実施している。学校の図書委員による本の紹介や読書週間を設定し、児童・生徒が本に触れる機会を提供している。

Ⅲ　評価と改善点

改善等の取組として、児童・生徒が読書週間を身につけるために、朝読書の推進等、読書時間を確保する。また、「ファミリー読書の日」や「ノーゲームデー」を実施する。

Ⅰ　計画の体系

基本施策	**カ　関係機関との連携**	**担当課**	**教育総務課**
主な取組	①地域に関わらず、市立図書館の団体貸出やレファレンスサービスを受けられるよう、連携していく。 ②学校間についても、情報交換や研修の場を設けるよう努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項　目	前年(H29)	現状(H30)	内　容
図書館からの団体貸出の冊数	534 冊	493 冊	学校司書から、電話や来館によるレファレンスを受けたり、授業に必要な特定の資料を「団体貸出予約表」に記入しファックスを送ってもらい、図書館から団体貸出で貸出をしている。

Ⅲ　評価と改善点

施策の効果は現れているが、学校図書館の資料が不足する場合、市立図書館からの団体貸出の利用を促進するようさらにＰＲしていく。また、学校間のネットワークおよび、市立図書館とのネットワークを強化し、情報の共有を図っていく。

（４）社会全体における子どもの読書活動の推進

Ⅰ　計画の体系

基本施策	ア　地域ボランティアの協力 イ　地域の連携・協力	担当課	中央図書館
主な取組	①今後も、研修等の情報を提供し、子どもの読書活動のために必要な知識や技能を有するボランティアの育成に努める。 ②各地域の特性を尊重しながら、地域の実情にあったサービスを展開するため、図書館と関係施設、地域ボランティアとの連携・協力体制の充実に努める。		

Ⅱ　現状の取組みと内容

項目（ボランティア団体）（H31.3.31 現在）		前年（H29）	現状（H30）	増減	内　容
福光	おはなしまんまる	10 人	11 人	＋１	福光地域のボランティア団体が、会員の高齢化により解散した。 各地域のボランティア団体は、月１～２回程度、図書館でおはなし会や工作等のイベントを実施し、本に親しむ機会を提供している。 また、保育園や子育て支援センター、小学校へも出向き、読み聞かせを実施し、社会全体における子どもの読書活動の推進を図っています。
	ピノキオ	５人	－	－５	
城端	虹の会	８人	８人	０	
平	フラットｂ	５人	３人	－２	
井波	ピッコログループ	９人	８人	－１	
	つばきの会	５人	６人	＋１	
福野	本でこんにちは	10 人	９人	－１	
合　計		52 人	45 人	－７	

なんと！本と子育て応援講座 ～家庭へ、地域へ、学校へ～	参加人数（H30）
第１回　読み聞かせボランティア講座	30 人
第２回　読み聞かせボランティア養成講座	42 人
第３回　ブックトーク実践講座	43 人

Ⅲ　評価と改善点

ボランティアの会員数は年々減少している。社会全体で読書に関する理解を高めるように、新規事業として、H30 年度実施した「なんと！本と子育て応援講座」を今後も継続企画し、子どもの読書活動のための必要な知識と知能を有するボランティアの育成、連携・協力体制の充実に努める。